

Labo News

らぼニュース

発行所 公益社団法人愛知県臨床検査技師会
 住所 名古屋市中村区名駅5-16-17
 花車ビル南館 〒450-0002
 電話 052-581-1013
 F A X 052-586-5680
 ホームページ <http://www.aichi-amt.or.jp/>
 Eメール aamt@aichi-amt.or.jp
 取引銀行 三菱UFJ銀行 柳橋支店
 普通口座731-677
 発行人 中根生弥
 編集人 武山純也

No.440 目次

- ◆微生物検査研究班 基礎講座に参加して・・・(2)
- ◆生物化学分析検査研究班 基礎講座に参加して・・・(3)
- ◆地区だより・・・・・・・・・・・・・・・・(5)
- ◆New Yearパーティー 2019開催のお知らせ・・・(6)
- ◆第68回愛知県糖尿病療養指導研究会
学術講演会・・・・・・・・・・・・・・・・(6)
- ◆平成30年度
初級・職能開発講習会、
都道府県ニューリーダー育成講習会、
管理運営研修会、各研修会同日開催のご案内
・・・・・・・・・・・・・・・・(7)
- ◆平成30年度 日臨技中部圏支部
第32回生理検査研修会・・・・・・・・(9)
- ◆平成30年度日臨技中部圏支部
臨床一般部門研修会・・・・・・・・(10)
- ◆講演会・基礎講座・研究会・・・・・・・・(11)
- ◆第19回 愛知県医学検査学会のご案内・・・(14)

第19回愛知県医学検査学会開催にあたり

学会長 丹羽 玲子

第19回愛知県医学検査学会は、尾張東地区担当にて、2019年7月7日(日)、サンプラザシーズズ(名古屋市名東区藤里町)で開催する運びとなりました。会場へは名古屋市営地下鉄東山線藤が丘駅から無料シャトルバスを運行(徒歩では約10分)、名古屋ICから約5分(無料駐車場120台)です。

今回の学会は、メインテーマを「活躍のフィールドを広げよう」、サブテーマを「医療への多様な貢献」としました。近年、臨床検査技師は、検体検査や生理検査などの臨床検査技術のみならず、診療支援チームなどで多種職と多様な協働業務に参画する機会が増えています。

また、診療支援においては職種をオーバーラップする資格が増加し、職域が拡大する一方、認定技師や検査士など高い専門性が求められる資格も存在し、変革の時期を迎えつつあるといえます。そのため、検査技術の研鑽に加え、医療の貢献のために活躍の場を広げ、さらなるスキルやキャリアアップが必要であると考えます。

公開講演では、愛知医科大学研究創出支援センター・特務教授吉川和宏先生をお迎えし、研究への取り組み、また、がんの免疫学的治療法の最新動向と今後の展開について、ご講演をお願いしております。

シンポジウムは、テーマを「未来に向かって羽ばたこう」とし、日常業務や協働業務などに、どのような取り組みをしているのか、また新たな業務への挑戦について、ディスカッションする予定です。

担当地区企画の「尾張東セレクション」では、ISO15189など外部評価の受審施設、質量分析、遺伝子検査など最先端検査の導入施設からのご報告、また、実際に超音波診断装置や顕微鏡を使用し参加型・体験型企画など、多数準備をしております。

現在、参加者にとって魅力的なプログラムになり、充実した学会になるよう鋭意企画を進めております。皆様の第19回愛知県医学検査学会へのご参加を、尾張東地区担当一同お待ち申し上げます。

微生物検査研究班 基礎講座に参加して

名古屋第二赤十字病院 坂倉 彩花

平成30年9月9日(日)に微生物研究班基礎講座が名古屋大学医学部基礎医学研究棟にて開催されました。微生物検査室に配属となり、半年余りの私にとって今回の基礎講座のテーマである『初心者の登竜門～GPC耐性菌の巻～』は非常に興味を引くものであり参加させて頂きました。

午前は耐性菌についての講義を聴きました。前半は耐性菌検出の意義と薬剤感受性検査の基礎について、後半は今回の基礎講座のテーマであるグラム陽性球菌の耐性菌についての講義でした。自施設での体験談や写真を織り交ぜたスライドを準備していただき、知識が追いついていない部分もあったものの経験の浅い私にとっても分かりやすい内容でした。講義では耐性菌とはどのようなものか、薬が効かないのはなぜか、なぜ危険なのか、という基礎的な事から丁寧に教えて頂き、今まで曖昧であった部分が解消されたと感じました。菌液濁度の調整や培地への塗布方法、ディスクの置き方や判定方法などの、手技自体の難易度は高い作業を正確にこなす為のポイントやその必要性も教えていただきました。耐性菌の検出には正確な手技や正しい知識に基づく判定が不可欠であることも学びました。今回の講義で学んだことを日々の業務に活かし、手技の精度を高めていきたいと感じました。グラム陽性球菌の耐性菌についての講義ではStaphylococcus属、Enterococcus属の2菌種について教えていただきました。自信を持って菌種を同定するためにも鑑別性状の把握は重要です。日常の検査で検出する頻度の高いこの2菌種について得た知識は明日からの業務にも生きるものだと思うので、復習等することによってしっかり吸収しなければならないと感じました。また、一見耐性菌のように見える紛らわしい菌の存在も教えていただきました。耐性菌なのか、そうでないのかによって感染対策も大きく異なり、正しい感染対策を実施するためには正確な菌種の同定が不可欠です。実際、業務でこの菌について正確な同定ができるのかと不安になりましたが、不安に思った際には先輩技師などに相談をすることで、誤った同定を起こさないようにしなければならぬと思いました。

午後は感受性検査の基礎的な手技の確認や症例問題に沿って菌の同定、感受性検査の判定までの流れを経験年数ごとに6グループに分かれ、実習形式で行いました。菌液濁度の調整の実習の時には見た目には適度な濃度であると思っても、実際に濃度を測るとやや低めであったということを経験し、日頃の検査の際にも気をつけなければならないと感じました。そういった手技を実務委員の方々に直接見ていただき、フィードバックを受けることで自身の手技の向上に繋がったと思います。またディスク法と比較することで、自施設でも行っている微量液体希釈法はコンタミネーションに気づきにくいということも学びました。微量液体希釈法による検査の際に、少しでもおかしいと感じる点があればグラム染色や分離培地などの1つ前のステップに立ち返ることが大切であると感じました。症例問題では自施設では行っていない検査方法も実際に経験することが出来ました。自施設では行わない検査方法であるものの、その原理は抗菌薬や抗菌薬耐性菌



の理解に通じる重要な知識であると感じました。実習で分からない点があった時には、午前中の講義テキストに立ち返ることで更に理解を深める事ができたと思います。また実務委員の方々がマンツーマンに近い形でついて下さり、実習内容以外にも日ごろの業務内での些細な疑問なども気軽に聞くことが出来ました。その中で自身の知識不足を実感したので、今回学んだ事を吸収し更に知識を増やしていかなければならないと感じました。

今回の基礎講座を通して、多忙な業務の中で機械的にこなしてしまう耐性菌の検出の意義を再認識することが出来、迅速に正確に検査結果を出す事が微生物検査室に求められている事を学びました。まずは今回の基礎講座の内容をしっかりと復習し、これからも参考書等で勉強し、積極的に勉強会へ参加するなど、正確な知識や手技を得るための努力を怠らないようにしたいと思います。また微生物検査室全体が共通の判定の見方を持つことも重要であると感じました。特にディスク拡散法による検査は操作や判定に個人差が生じやすく注意が必要です。普段から目合わせなどを行い、今回の基礎講座で学んだことを自施設の微生物検査室で共有していきたいと思います。

今回の勉強会に参加することでこれまで覚えていた知識の整理ができ、理解もとても深まったように感じました。今後もこのような勉強会に積極的に参加していきたいと思います。最後に微生物研究班基礎講座を開催してくださった微生物研究班の方々にこの場をお借りして心より御礼申し上げます。

生物化学分析検査研究班 基礎講座に参加して

名古屋第二赤十字病院 野村 藍

平成30年9月23日(日)に生物化学分析検査研究班基礎講座『体験しよう！～理解しやすいELISA法～』が開催されました。近年、検査機器の自動化が進み迅速かつ効率的な測定が可能になった一方、反応過程がブラックボックス化したことで測定原理の理解不足が加速しているのも事実です。今回、検査機器の中で行われている反応を再確認し、生化学、免疫血清検査に携わる者としてその知識をより深めることができるのではないかと思いますこの講座に参加いたしました。

今回の内容は、午前中はイムノアッセイについての講義、午後からは酵素免疫測定法(ELISA)とイムノクロマトの実技とそれに関する講義、HCV検査を例に挙げたケーススタディー、最後に、当日行った実習結果の解説というものでした。

午前中の講義ではイムノアッセイの概要や測定原理、抗原抗体反応、また、測定に影響を与える要因について学びました。測定に影響を与える要因としては非特異反応や異好抗体、薬剤など様々なものがあります。現在使用されている多くの検査機器は、測定原理や検査の意義を深く理解していなくても機械に検体をかけるだけで結果を出すことが可能であり、ほとんどの検体はこのような状態でも問題ない場合が多いのが現実です。しかし、日常業務の中で実際に異常データを認めた時、その原因を追究し、適切な対応をとるためには、今回の講義の内容は学ぶところが多く、とても有意義でした。異常データの根本的原因を突き止めることはなかなか難しいですが、考えられるいくつかの可能性を知識として持ち合わせていれば、間違った結果を臨床に返すことなく迅速な対応も出来ると思いました。

午後からの実技実習は、機械の中で行われているELISAと全く同じ工程を手作業で行うというもの



多忙な業務の中、診察前検査によって臨床からより迅速な検査結果を求められるようになり、自動分析器は検査室にとって必要不可欠となっています。しかし、検査機器を仕組みがわからないブラックボックスとするのではなく、技師が測定原理を理解し検査結果に理由付けができるようになることで初めて活かされてくるということを、今回の基礎講座に参加したことで改めて実感しました。今後も、これらのことを念頭におきながら日々の業務を行っていかねばならないと思いました。最後に、生物化学分析検査研究班基礎講座を開催してくださった方々にこの場をお借りして心より御礼申し上げます。



● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●

2018年10月10日現在 正会員数 3,353名

● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●

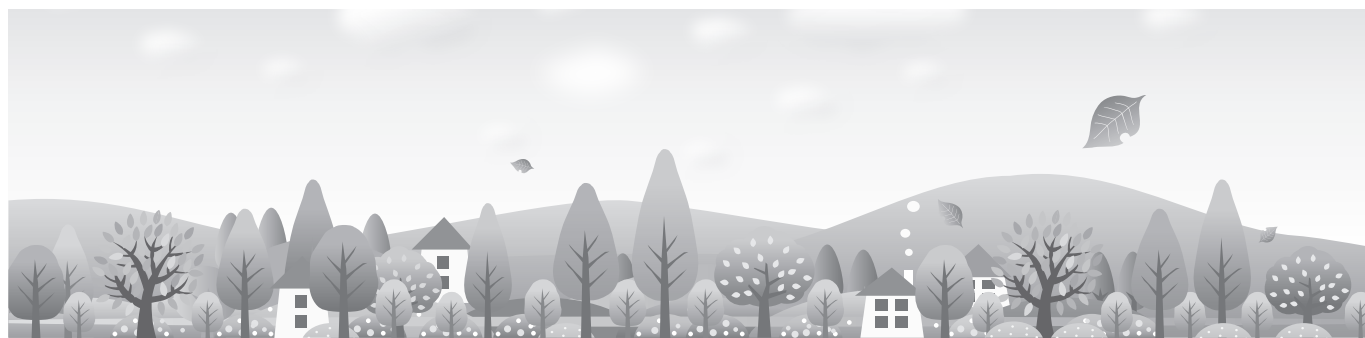


がん医療を考えるーがんサバイバーの立場からー

春日井市民病院 加藤 浩

春日井市民病院は、人口31万人を抱える春日井市の基幹病院であり、私はこの施設で30年以上病理・細胞診検査を担当してきた。週末には趣味の山登りやマラソンを走るなど、順調に人生を謳歌していたが、不幸は突然やってきた。顎下リンパ節が急に腫大し、穿刺吸引細胞診が行われた。病理検査のスタッフがすぐ染色してプレパラートを持ってきてくれた。一目見るなり「悪性リンパ腫」と診断できた。がんは1981年にわが国の死亡原因の1位となり、年間死亡者数は36万人を超え、総死亡の約30%を占めるに至っている。また高齢化に伴い年間70万人以上が新たにがんと診断されている。がん患者の約3人に1人は就業可能年齢（20～64歳）である。一方、がん治療は飛躍的に進歩し、がん患者の5年生存率は約50%にまで向上している。しかし、その時は「後何日生きられるだろう。」としか考えられなかった。がん患者は病気の問題以外に様々な問題を抱えていることが知られている。①身体の一部を切除したり、抗がん剤の副作用など身体的問題②それに伴う不安・抑うつなどの精神的問題③高額医療による社会的・経済的問題などがあり、その結果としてQOLの低下があげられる。それらの不安を解消するため緩和ケアとともに注目されているのがサイコオンコロジー（精神腫瘍学）である。がんに伴う人間学的側面について医学、看護学、心理学、社会学、死生学、哲学など様々な領域よりアプローチを行い、患者の抱える苦悩を軽減することを目的にしている。欧米では、がんの告知が一般化した1970年代から臨床の現場に導入されるようになった。わが国では、がん対策基本計画の中でがん医療への「精神腫瘍医」

の参画の重要性が盛り込まれているが、まだ一般的ではない。もう1つの問題として、がんの診断から治療までの期間が長いことである。がんの特性や発生臓器により異なるが、私の場合、初診から治療開始までに3週間を要した。穿刺細胞診や生検の結果を検査室がどんなに早く出しても「1週間後に結果を聞きに来てください。」と言われてしまうと患者にとって1週間を悶々と過ごすことになる。また、その間に転移や浸潤をする可能性もある。迅速に結果報告し治療につなげることは、どこの病院でも取り組んでいる課題である。実際に体験し、1日でもいいや1時間でも早く結果を出す重要性を実感した。現在は、あたたかく迎えサポートしてくれた職場の仲間感謝しつつ日々過ごしている。また、この貴重な体験を通し、がんサバイバーの立場からこれからも医療に貢献していきたいと考えている。そして、職場の仲間と6時間リレーマラソンに出たいと思っています。



New Yearパーティー 2019 開催のお知らせ

恒例の「New Yearパーティー 2019」を下記の通り開催いたします。

5月には新天皇が即位し年号が改まる輝かしい新年のスタートを祝し「中国料理 東天紅」にて会員および賛助会員の皆様に親睦を深めていただきたいと思います。

前回は200名を越える参加で大盛況でした！今回もぜひ“若手技師さん”や“女性技師さん”の方などにもお声をかけて、職場の仲間同士で参加いただけたらと思っています。

キレイな夜景を見ながら、おいしい食事と飲み物を片手に楽しい時間をみんなで過ごしませんか？

そして素敵なお土産が当たるかも…今年も多数の方の参加をお待ちしております！！

記

日時：平成31年1月18日(金) 19:00～21:00
(受付は18:30より)
場所：東天紅 名古屋
名古屋市中村区那古野1-47-1
国際センタービル25階

地下鉄桜通線「国際センター」下車すぐ
名古屋国際センタービルの地下とつながっています

会費：5,000円

当日、徴収致します。なお、キャンセルは1週間までにご連絡下さい。

1週間以内の場合は、キャンセル料が発生しますので、宜しくお願い致します。

申込方法：愛臨技HP上に案内と申し込み表がありますので、FAX、あるいはメールにて出席表を愛臨技事務所まで送付して下さい。

申込期限：平成30年12月28日(金)

問合せ先：藤田医科大学 医療科学部 刑部恵介

電話：0562-93-9430

メールアドレス：

kosakabe@fujita-hu.ac.jp



《愛臨技生涯教育認定登録団体研究会のご案内》

第68回愛知県糖尿病療養 指導研究会学術講演会

テーマ：糖尿病チーム医療～多職種連携～

日時：平成30年12月2日(日) 13:00～16:20

場所：名古屋大学医学部附属病院

医系1号館 地下1階会議室

一般講演(13:05～14:35)

1. 理学療法士と多職種連携

～中部労災病院の場合～

中部労災病院 理学療法士

近藤 健司

2. 高齢者サポートネットワーク

～病院看護師と地域の看護師の連携～

碧南市民病院 認定看護師 岡田 照代

3. 糖尿病患者の入院から在宅までの療養支援

東海記念病院 管理栄養士 藍川 智津

特別講演(14:50～16:20)

「糖尿病患者に対する多職種介入」

講師：蒲郡市民病院 糖尿病看護認定看護師

山内 崇裕

★本講演会は、「日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修会」として第1群1単位、第2群1単位が認定予定です。どちらかを選択してください。

【参加費】愛知県糖尿病療養指導研究会会員無料、その他参加者1,000円

平成30年度 初級・職能開発講習会、都道府県ニューリーダー育成講習会、 管理運営研修会、各研修会同日開催のご案内

今年度、当会では標記3研修会を同日開催することといたしました。初級・職能開発講習会および都道府県ニューリーダー育成講習会は1日の講習会となり、管理運営研修会は午後だけの研修会となります。午前中は初級・職能開発講習会と都道府県ニューリーダー育成講習会を合同にて共通の講演会とし、午後からはそれぞれ分かれグループワーク中心の講習会となります。詳細な内容は愛知県臨床検査技師会ホームページをご参照ください。

初級・職能開発講習会および都道府県ニューリーダー育成講習会は、各々先着50名の事前申込制となりますので、開催概要および申し込みについてご案内させていただきます。なお、管理運営研修会の内容に関しては後日ご案内させていただきます。

平成30年度 初級・職能開発講習会

本講習会は、卒後3年から5年程度の若手技師に早い時期から医療情勢にも興味を持っていただき、今後の臨床検査のあり方について思考し実践できる臨床検査技師、他職種連携医療の中で活躍できる臨床検査技師の育成を目的として開催する。

【開催概要】

- 日 時：平成31年2月17日(日) 9:20～16:00
場 所：藤田医科大学 3号館(旧生涯教育研修センター2号館)
午前101教室、午後218教室
対 象 者：卒後3～5年程度の当会会員
内 容：9:20 オリエンテーション
9:30 会長講話「医療情勢と今後の方向性について」(60分)
10:30 休憩(10分)
10:40 基調講演「多職種連携医療で活躍する臨床検査技師」(90分)
12:10 昼食(ランチョンセミナーを予定)
13:20 グループワーク「多様なニーズに対する臨床検査技師のあり方」
15:20 eラーニングの説明(30分)
15:50 閉会式
受 講 料：1,000円(当日徴収します)
募集人員：50名
申し込み方法：日臨技Webにて(会員専用ページ→生涯教育→行事検索)
生涯教育履修点数：基礎教科 20点
受付期間：平成30年12月3日(月)より平成31年1月20日(日)
連 絡 先：〒470-1192 豊明市杓掛町田楽ヶ窪1-98
藤田医科大学(旧藤田保健衛生大学) 医療科学部
刑部 恵介 (オサカベ ケイスケ)
TEL：0562-93-9430 E-mail：kosakabe@fujita-hu.ac.jp

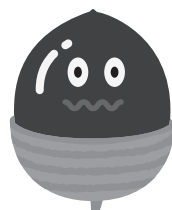
平成30年度 都道府県ニューリーダー育成講習会

都道府県技師会や職場で活躍できる、次世代を担うリーダーの育成を目的とし、医療情勢や臨床検査技師の未来像、技師会活動の在り方などについて学ぶ。また、組織目標達成に向けた考え方や、プロジェクト成功に向けた現状分析、課題解決力などを習得する。

本講習会は、過去4年間にわたり日臨技が各県1名を対象にニューリーダー育成講習会を開催しており、過去に当会から受講した4名が中心となり開催する。

【開催概要】

- 日 時：平成31年2月17日(日) 9:20～16:00
- 場 所：藤田医科大学 3号館(旧生涯教育研修センター2号館)
午前101教室、午後221教室
- 対 象 者：卒後5～15年程度の当会会員
- 内 容：9:20 オリエンテーション
9:30 会長講話「医療情勢と今後の方向性について」(60分)
10:30 休憩(10分)
10:40 基調講演「多職種連携医療で活躍する臨床検査技師」(90分)
12:10 昼食(ランチョンセミナーを予定)
13:20 グループワーク「職場などにおける課題の解決」(仮)
15:20 eラーニングの説明(30分)
15:50 閉会式
- 受 講 料：1,000円(当日徴収します)
- 募集人員：50名
- 申し込み方法：日臨技Webにて(会員専用ページ→生涯教育→行事検索)
- 生涯教育履修点数：基礎教科 20点
- 受付期間：平成30年12月3日(月)より平成31年1月20日(日)
- 連 絡 先：〒470-1192 豊明市沓掛町田楽ヶ窪1-98
藤田医科大学(旧藤田保健衛生大学) 医療科学部
刑部 恵介 (オサカベ ケイスケ)
TEL：0562-93-9430
E-mail：kosakabe@fujita-hu.ac.jp



平成30年度 日臨技中部圏支部 第32回生理検査研修会

- 【テーマ】 多分野から役立つ知識を発見する ～広い視野で検査に繋がる知識を求めて～
【会 期】 平成31年2月9日(土)～10日(日)
【会 場】 名古屋コンベンションホール 4階会議室

＜1日目＞

- 13:30 受 付
14:00 開講式／オリエンテーション
14:10 講演1 『他検査の情報をエコーに役立てる』
15:00 講演2 『心臓リハビリチームへの参画』
16:00 講演3 『負荷心エコー図検査を臨床に活かす』
17:00 特別企画 『こんなときどうしますか?』
18:00 情報交換会

＜2日目＞

- 8:30 講演4-A 『症状から診る腹部エコー』
講演4-B 『神経伝導検査ハンズオン』
9:30 講演5-A 『マンモグラフィーを乳腺エコーに役立てる』
講演5-B 『脳死判定と臨床検査技師の関わり』
10:30 講演6 『感染症検査の現状』
11:30 閉講式

- 【定 員】 120名
【参加費】 会員 10,000円、非会員 11,000円 * 情報交換会 5,000円
【教科区分】 専門教科 30点
【申込期間】 平成30年11月10日～平成31年1月12日
【申込方法】 日臨技ホームページの会員専用ページからログインして事前参加登録を行ってください。
(URL: www.jamt.or.jp/index.php)
* 事前登録が困難な方は、必要事項を記入してメールでお申し込みください。
1) 所属県名 2) 会員番号 3) 漢字氏名(ふりがな) 4) 年齢 5) 性別 6) 施設名
7) 所属部署 8) 施設住所 9) 電話番号 10) メールアドレス 11) 情報交換会参加
以上1)～11)を列記し下記アドレスへメールしてください。
受付確認の返信メールがない場合は、連絡先まで問い合わせください。
申込み専用 aichi.seiri@gmail.com
【交通・宿泊】 各自で手配してください。
【連絡先】 〒483-8704 愛知県江南市高屋町大松原137番地
JA愛知厚生連江南厚生病院 臨床検査技術科 柴田 康孝
TEL: 0587-51-3333 (内線1400) E-Mail: sbyas1011@gmail.com

平成30年度日臨技中部圏支部 臨床一般部門研修会

【会 期】 平成31年 1月12日(土)～13日(日)
【会 場】 名古屋大学医学部基礎研究棟 4階 第4講義室

＜1日目＞

11:45 開講式／オリエンテーション
12:00 ランチョンセミナー
13:00 特別講演『尿生化学について』
14:40 講演1『尿検査の最近の話題について』
16:20 シンポジウム1『最近の尿中有形成分分析装置の特徴と使用状況1』
18:00 情報交換会

＜2日目＞

9:00 シンポジウム2『最近の尿中有形成分分析装置の特徴と使用状況2』
10:10 講演2『尿沈渣の見方・参加型スライドカンファレンス』
11:40 ランチョンセミナー
12:30 講演3『異型細胞の見方』
13:40 症例解説
15:20 閉講式

【募集人数】 120名
【教科区分】 専門教科：30点（＊認定一般検査技師指定講習会申請中）
【参加費】 会員：8,000円 非会員：10,000円（情報交換会：3,000円）
【申込期間】 平成30年10月1日～12月25日（受講料振込期日を含む）
【申込方法】 日臨技ホームページの会員専用ページからログインして事前参加登録を行ってください。
(URL: www.jamt.or.jp/index.php)

※返信メールに受講料の振込先が記載されていますので、速やかにお振込みください。また情報交換会参加ご希望の方は、事前参加申請の「払込項目」の「事前情報交換会会費」のチェック欄にチェックしていただき、受講料とともに振込をお願いします。HPから事前登録が困難な方は必要事項をご記入の上、メールにてお申込みください。

申込み専用メールアドレス: ippannaichi@yahoo.co.jp

＜必要事項＞

①所属県名 ②会員番号 ③漢字氏名（ふりがな） ④年齢 ⑤性別 ⑥一般経験年数
⑦施設名 ⑧所属部署 ⑨施設住所 ⑩電話番号 ⑪メールアドレス ⑫連絡先住所
⑬認定一般検査技師の有無 ⑭情報交換会参加の有無

＜研修会問い合わせ先＞

〒470-0396 愛知県豊田市浄水町伊保原500-1

JA愛知厚生連 豊田厚生病院 臨床検査技術科 鈴木 康太

TEL: 0565-43-5000（内線：2980） Mail: s-kouta@toyota.jaaikosei.or.jp

講演会

生物化学分析検査研究班

専門教科：20点

日時：平成30年12月1日(土) 15:00～17:00

場所：リップルスクエア

名古屋市東区東桜1-1-10

アーバンネット名古屋ビル20F

主催：生物試料分析科学会 東海北陸支部

テーマ：生物化学分析検査の今後について

講師：1. JA愛知厚生連 豊田厚生病院

中根 生弥

2. JA愛知厚生連 安城更生病院

岡田 元

司会：公立西知多総合病院

山内 昭浩

名古屋掖済会病院

岡本 明紘

内容：生物化学分析検査の今後の展望と課題について、検査機器の変遷、人材育成、精度管理や基準範囲、経営やコスト管理の昔と今後を総合的にお話していただきます。解り易く非常に興味深い内容ですので、今後を担う若手技師の方はもちろん、ベテラン技師や管理者の方も是非ご参加ください！

講演会

輸血検査研究班

専門教科：20点

日時：平成30年12月8日(土) 15:00～17:30

場所：名古屋第一赤十字病院 内ヶ島講堂

テーマ：輸血24時！その現場では？

～ER、OPE室、輸血検査室～

講演1：「その輸血、私たちがお届けします！

輸血検査室、安心の工夫」

豊橋市民病院 輸血センター 中村 藍

講演2：「輸血24時間、手術室。心臓血管外科手術における血液製剤使用の現状」

一宮西病院 医療機器管理室

副科長

海江田 章

特別講演：「ERにおける輸血療法の現状」

愛知医科大学病院 高度救命救急センター

講師

富野 敦稔

司会：愛知医科大学病院

片井 明子

内容：今年の講演会は輸血医療の「現場」に注目し、「輸血24時！その現場では？～

ER、OPE室、輸血検査室～」というテーマを掲げ、それぞれの輸血の「現場」で活躍してみえる医師、臨床工学技士、臨床検査技師、3名の先生方にご登壇いただきます。24時間安全かつ迅速に輸血を提供する輸血センターの現状と工夫、MEから見たOPE室における輸血、特別公演では愛知医大の富野先生よりドクターヘリを含めた救急現場と輸血についてお話いただきます。輸血医療の「現場」を理解することで、他職種から何が求められているか？各施設で考える機会となり、参考となれば幸いです。多くの参加をお待ちしております。

講演会

遺伝子染色体検査研究班

専門教科：20点

日時：平成30年12月8日(土) 15:00～17:00

場所：名古屋第二赤十字病院 第1病棟10階

加藤化学記念カンファレンスホール

テーマ：新たな遺伝子検査法の臨床現場での活用

講師：1. 新たな起炎菌迅速同定検査システムの開発と今後の展望

富山大学附属病院

検査・輸血細胞治療部 上野 智浩

2. がん遺伝子パネル検査の臨床実装

臨床結果の保証をどうすべきか

三重大学医学部附属病院 中央検査部

遺伝子検査室

池尻 誠

司会：愛知県がんセンター中央病院

柴田 典子

内容：起炎菌同定、悪性腫瘍の治療において遺伝子検査は様々な方法が開発、臨床活用され一般的な検査になりつつあります。起炎菌迅速同定検査システムは今後の感染症治療において期待されている技術の一つです。がん遺伝子パネル検査は今後導入されつつある検査です。今回、遺伝子検査を実際に臨床活用されている講師を招き導入から今後の展望についての講演を企画しました。興味のある方の参加をお待ちしております。

講演会

微生物検査研究班

専門教科：20点

日時：平成30年12月15日(土) 15:30～18:00

場所：名古屋大学医学部基礎研究棟講義室2

テーマ：感染症医が微生物検査の「何で？」に
応えます

講師：名古屋大学大学院医学系研究科

特任助教 井口 光孝

司会：名古屋第二赤十字病院 原 祐樹

内容：日常の微生物検査において「どうしてこの検査を行うのだろうか?」「この結果はどのように臨床に活かされているのだろうか?」と感じることがあると思います。私たちが抱く日常の疑問に関して感染症医の視点からエビデンスを交えて解説していただく予定です。本講演がみなさまの日常検査における疑問を解決する一助となることを期待しております。多くの参加をお待ちしております。

基礎講座

血液検査研究班

専門教科：20点

日時：平成31年1月20日(日) 9:30～16:30

*受付開始時間は9:00から

場所：名古屋大学医学部基礎棟3F第2講義室

名古屋市昭和区鶴舞町65番地

JR中央線・鶴舞駅下車

テーマ：骨髓判読WHO分類2017伝達講習

講師：【午前・講義】

1. 「骨髓所見のとり方、書き方」(仮)
愛知医科大学病院 中央臨床検査部
榎本めぐみ

2. 「WHO分類2017伝達講習」
NTT東日本関東病院 臨床検査部
後藤 文彦

【午後・実習】

骨髓像判読 顕微鏡実習

血液検査研究班班員

司会：地域医療機能推進機構中京病院

楠木 啓史

内容：2016年に改訂されたWHO血液腫瘍分類

の変更点について基礎講座を行います。午前は骨髓所見の書き方や骨髓像の見方について、WHO分類2017伝達講習を行います。午後は、骨髓症例の鏡検実習と解説を行います。

定員：40名(応募者多数の場合は、施設ごとに調整させていただきますのでご了承ください。)

尚、人数調整等で漏れた方は講義のみの受講も出来るよう配慮をいたします。但し午前講義のみを対象とした募集は行いません。

参加費：【午前講義と午後実習の場合】

3,000円(県外会員3,500円 非会員5,000円)
但し定員40名

【午前講義のみの場合*】

1,000円(県外会員1,500円 非会員3,000円)
を徴収させていただきます。

*人数調整により40名枠から漏れた方対象

参加費は事前に指定口座へ振り込みを行なって頂きます。また振込後の返金は致しませんのでご了承ください。

申込方法：血液基礎講座申込用紙(エクセルシート)

を愛知県技師会ホームページ血液検査研究班からダウンロードして①会員番号

②氏名 ③施設名 ④所属 ⑤連絡先(TEL) ⑥連絡先(メールアドレス)

⑦血液検査経験年数 ⑧骨髓検査経験年数を記載し ⑨午前・午後のフルコースの受講から漏れた場合、午前の講義の参加を希望するか否かを必ず選択し、Eメールにて血液基礎講座申込用紙を返送しお申し込み下さい。(メールの件名は『基礎講座事前申込み』とし、添付する申込用エクセルシートは申込者名がわかるように【例】『楠木啓史 血液基礎講座申込用紙』とし、申込先まで返送して下さい。)

申込先：愛知県技師会血液検査研究班 宛

Eメール：aichi.laboblood@gmail.com

問い合わせ先：JCHO中京病院 検査部

楠木 啓史

TEL：052-691-7151

申込期間：平成30年11月1日～11月30日

※申込の受領については、12月15日頃までにEメールで受講料の振込口座先と共に連絡いたします。
なお、昼食は各自でご用意下さい。

研 究 会

生殖医学検査研究班

専門教科：20点

日 時：平成30年12月1日(土) 15:30～17:00

場 所：社会医療法人財団新和会八千代病院
2階 大会議室

テ ー マ：困った症例検討会

～精液検査から体外受精まで～

講 師：1. 藤田医科大学 古川 博
2. 豊橋市民病院 鈴木 範子
3. 藤田医科大学ばんだね病院

伊藤 裕安
4. トヨタ記念病院 平松 博子
5. 竹内レディースクリニック

榊原 重久
6. 八千代病院 小笠原 恵

司 会：藤田医科大学 古川 博

内 容：不妊治療において基礎となる精液検査から体外受精などの高度生殖医療まで、数えきれないほど様々な症例があり練達の対応が必要です。今回は施設の枠を超えて技師のための症例検討会をします。

研 究 会

病理細胞検査研究班

専門教科：20点

日 時：平成30年12月15日(土) 15:00～17:00

場 所：リップルスクエア
名古屋市東区桜1-1-10
アーバンネット名古屋ビル20F
久屋大通（地下鉄名城線）出口3B

テ ー マ：感染対策と医療安全

講 演 1：病理診断業務における感染対策の基礎

藤田医科大学病院 平澤 浩

講 演 2：当院における検体取り扱い防止策

公立西知多総合病院 吉本 尚子

講 演 3：病理検体取り扱いマニュアルを業務工程フロー図に落とし込む

司 会：ひたちなか総合病院 根本 誠一
名古屋大学大学院 医学系研究科

内 容：橋本 克訓
質の高い病理診断には正確に作製された病理標本が必須です。今回の研究会では正確かつ安全な標本作製を実践するための講演を3名の講師に行っていただきます。感染対策、医療事故防止、品質管理など、業務改善のご参考になれば幸いです。多数の皆様のご参加をお待ちしています。

研 究 会

生理検査研究班

専門教科：20点

日 時：平成30年12月15日(土) 15:00～17:00

場 所：名古屋第二赤十字病院
加藤化学カンファレンスホール

テ ー マ：最新のガイドラインを見直そう！！

講 師：1. 心腔計測におけるガイドライン2015
(左心系)

名古屋掖済会病院 花井甲太郎

2. 心腔計測におけるガイドライン2015
(右心系)

豊橋市民病院 手嶋 充善

3. 心エコーによる左室拡張機能評価
2016

JA愛知厚生連安城更生病院

犬塚 齊

4. 超音波による頸動脈病変の標準的評価法2017

小牧市民病院 岸 久美子

司 会：名古屋第二赤十字病院 石神 弘子

内 容：超音波検査は、現在の医学において診断に欠かせないツールの一つです。そのため、検査には正しい知識や技術が必要となってきます。最新のガイドラインを基に、心臓超音波検査および頸動脈超音波検査を見直しましょう。多数の参加をお待ちしています。

第19回 愛知県医学検査学会のご案内

開催日時：2019年7月7日(日) 9時から17時
(受付8時30分開始)

会場：サンプラザシーズンズ

〒465-0036

名古屋市名東区藤里町1601番地

Tel：052-774-0211

担当：公益社団法人 愛知県臨床検査技師会
尾張東地区

学会長：丹羽 玲子 (愛知医科大学病院)

副学会長：北村 勇 (名古屋市立東部医療センター)

実行委員長：小木曾美紀 (日進おりど病院)

事務局長：大矢 健一

(日本赤十字社東海北陸ブロック血液センター)

学会テーマ：「活躍のフィールドを広げよう

～医療への多様な貢献～」

学会内容：一般演題発表、公開講演、シンポジウム、
尾張東セレクション (担当地区企画)、
ランチョンセミナー、企業展示等

参加資格：資格は問いません。他職種や賛助企業の方などを広く募集します。

参加費：2,000円

04.臨床化学 05.病理 06.細胞

07.生理 08.一般 09.公衆衛生

10.輸血 11.情報システム

12.遺伝子・染色体 13.管理運営

14.教育 15.チーム医療 99.その他

⑥連絡先電話番号

⑦返信用E-Mail (携帯アドレス不可)

演題申込み専用アドレス：

airingisyouroku@gmail.com

演題を申し込まれた方には、演題登録確認メールと抄録テンプレートを送信します。

申込後、1週間以内に演題登録確認メールと抄録テンプレートが届かない場合は、下記までお問い合わせ下さい。

連絡先：第19回 愛知県医学検査学会

演題・抄録担当

谷川 直人 (旭労災病院)

Tel：0561-54-3131

E-Mail：tanigawa-n@asahih.johas.go.jp

【一般演題募集要項】

演題申込期限：2019年1月31日(木) 必着

抄録送付期限：2019年2月28日(木) 必着

演題申込方法：メールでの申込みのみとさせていただきます。下記の必要事項を記入し、演題申込み専用アドレスへ送信して下さい。

①地区名 (技師会員のみ)

②施設名

③演題名

④発表者名

⑤希望発表分野：以下の分野より1つ選択してください。

01.微生物 02.免疫血清 03.血液

会場案内図



学会当日は名古屋市営地下鉄藤が丘駅からの無料シャトルバスを増発して対応する予定です。